



FCP成果報告会

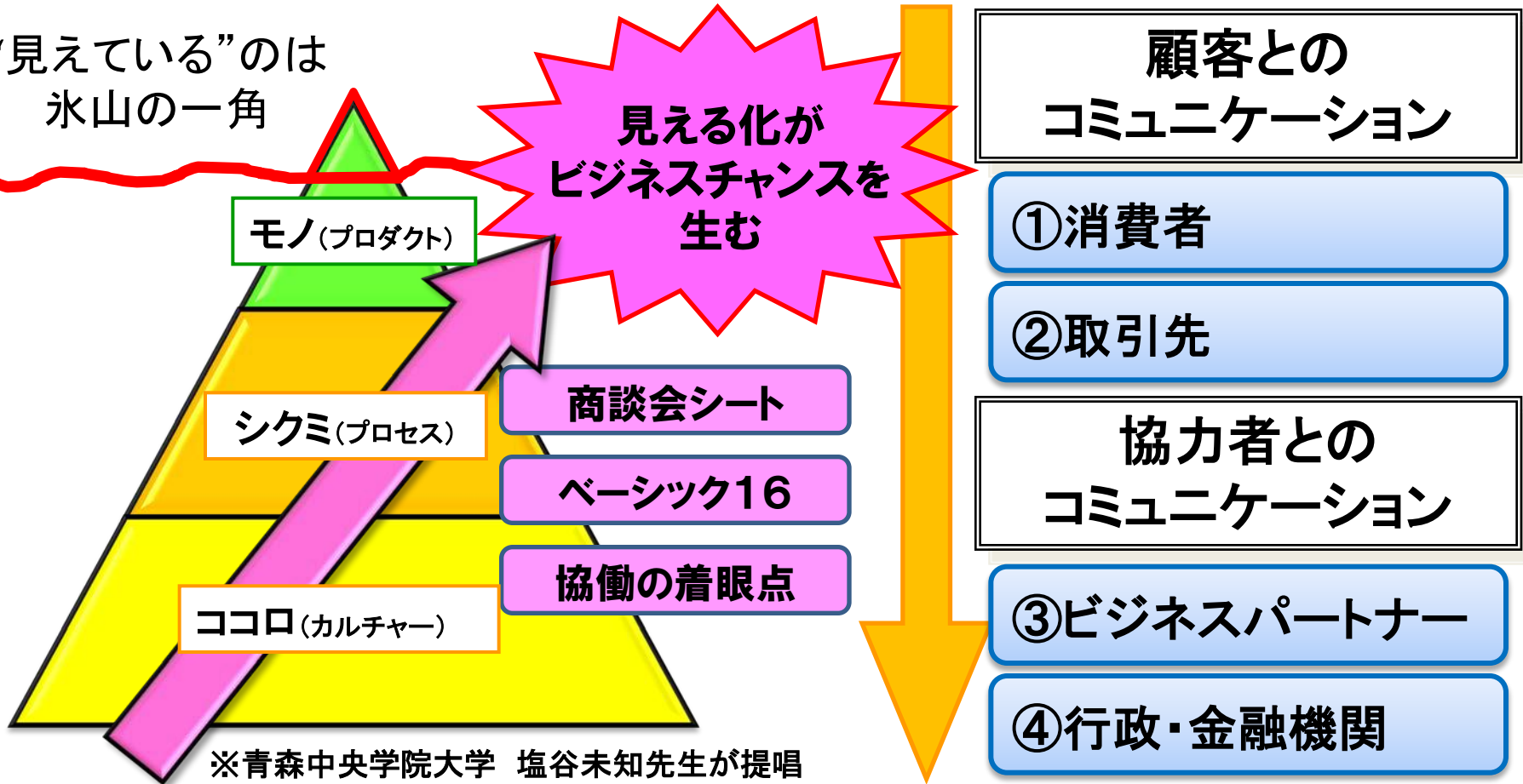
平成23年度FCP岩手ブランチについて

平成24年3月

岩手県 商工労働観光部 産業経済交流課

企業活動の“見える化”が「経営転換→産業構造転換」のきっかけに

“見えている”のは
氷山の一角



情報開示+コミュニケーション=“顧客密着経営”に活路

企業と関係機関が協働で取組むプラットフォームから

金融機関

生産者

企業

支援機関

行政

企業の取組

- ・被災企業生産回復
- ・新商品サービス
- ・販路・新規得意先
- ・人材育成



変化に対応する
企業・経営体へ

企業グループの取組

- ・復興→次の産業へ
- ・異業種ネットワーク
- ・研究会
- ・産学官金連携



食関連産業
ネットワークの形成
→成長分野の開発
と参入促進

地域の取組

- ・圏域、市町村での
プラットフォーム型支援



圏域、市町村から
域内での発信・
お客様への発信

県内食品事業者、6次産業化に取り組む農林水生産者を対象に、FCP
本体からアドバイザーにお越しいただきセミナー・交流会を実施。



東京大学大学院中嶋康博先生をはじめ
(株)イトーヨーカ堂 坂倉秀人氏、
キューピー株式会社 堀池俊介氏、
社団法人日本能率協会 箱崎浩大氏
から ①販路拡大、②商品開発、③お客様
コミュニケーションについて、広範囲の情報、
取組み内容についてご教示いただきました。

6次産業化や農商工連携に取り組む県内生産者や事業者間の連携強化、地域活性化を図るため、事例発表、意見交換等を実施。

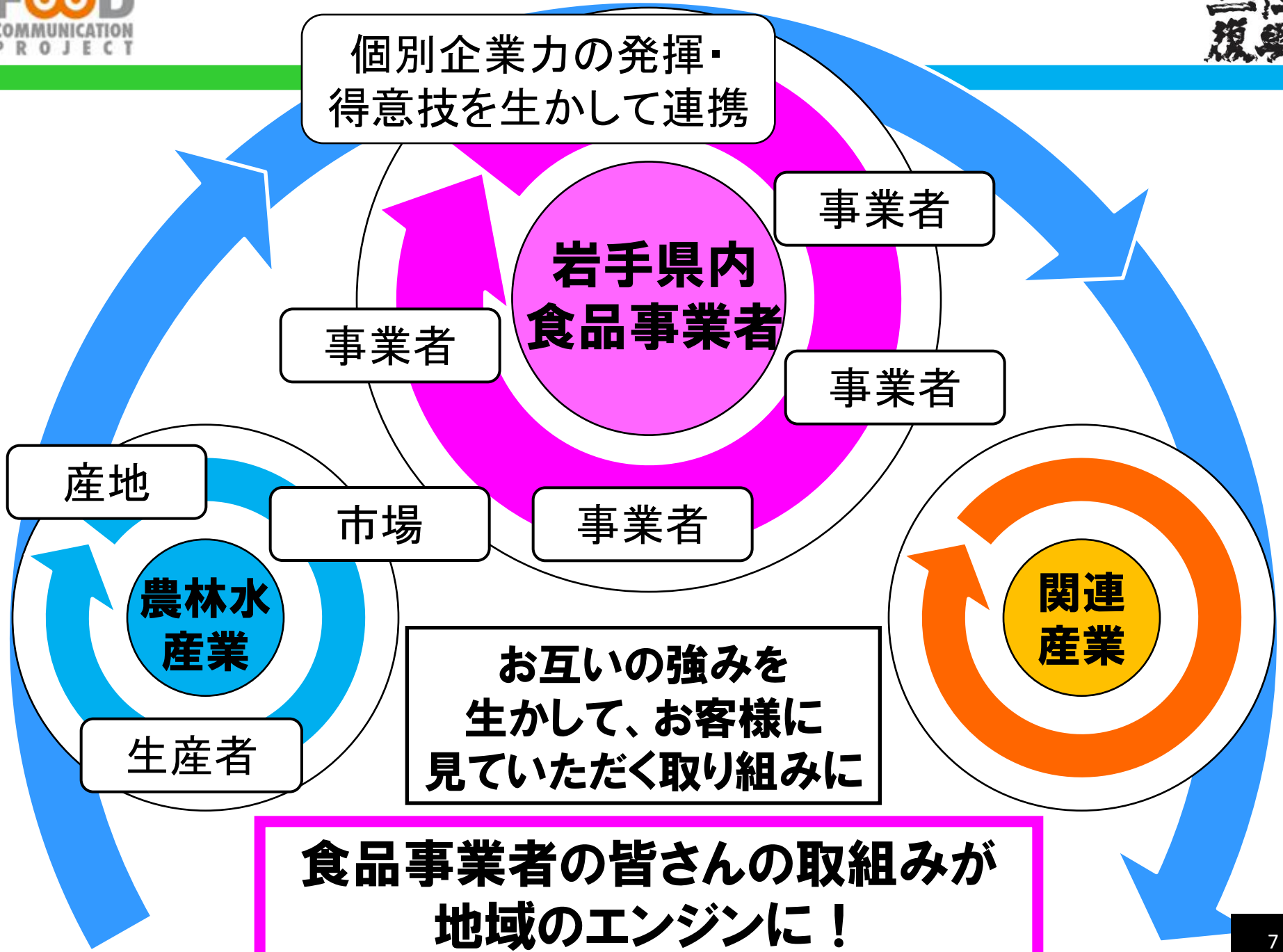


きのこのSATO販売(株)の佐藤社長による「6次産業化への取組みと東日本大震災からの復興」と題した講演、地域事例発表のほか、「6次産業化・農商工連携部門」「産地直売所」部門に分かれた分科会での個別事例発表、意見交換を行いました。

食における新たなビジネスを事業者から提案していただくとともに、企業間の交流と人脈づくりを通じ、産学官金の連携で新たな食ビジネスの芽を育てる。



「復興ビジネス・プロジェクト提案部門」
「食と観光部門」、「企業・商品照会部門」のビジネス提案をいただいたほか、支援制度活用検討会により、各種支援制度導入のポイントを紹介しました。



個別企業力の発揮・
得意技を生かして連携

岩手県内
食品事業者

事業者

事業者

事業者

産地

市場

事業者

農林水
産業

生産者

関連
産業

お互いの強みを
生かして、お客様に
見ていただく取り組みに

食品事業者の皆さんの取組みが
地域のエンジンに!

メモ



FCP成果報告会

平成23年度FCP山梨ランチについて

平成24年3月

山梨県 農政部 果樹食品流通課

1・山梨ブランチの組立て

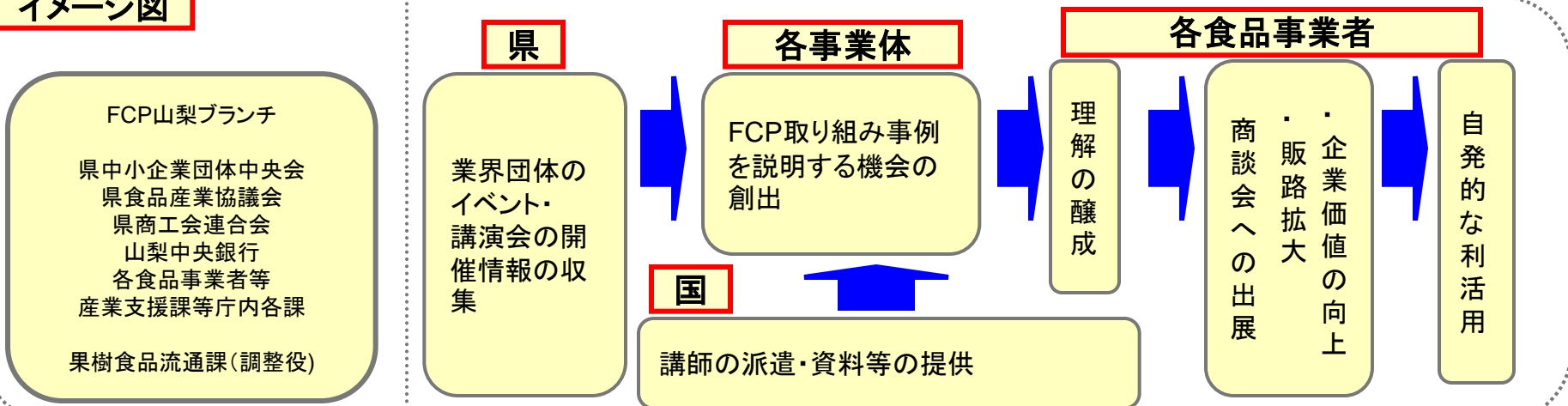
- 食品事業者の自発的な取組みを促進するFCP事業について、県が推進することにより、販路拡大や食品事故の予防に努める。
- 県としては、農水省の協力を得て、FCPの知識や情報を、食品事業者に浸透させていく。
- 具体的には、食品事業者が所属する、県中小企業団体中央会、県商工会連合会、山梨中央銀行等が開催するイベントに、FCPの取り組みを組み入れ、業者の認知度を高める。

山梨県の役割

- 年度当初、各業界団体が食品事業者向けに行う事業を照会し、体系化する。
- 各事業体が行う事業に、FCP事業を組み込むことで、事業者の認知度を高めていく。その際、農水省から講師派遣や資料提供をいただき、全国の動きと合うように配慮。

目的: FCPの認知機会を拡大 → FCPの普及・定着

イメージ図



2・平成23年度上期の取組み

○山梨ランチの組み立てについて、構成メンバーで協議を実施(4月26日)

【構成メンバー: 県中小企業団体中央会、県商工会連合会、山梨中央銀行・農水省・県】

→各事業体を実施する食品事業者向けのイベント・研修会にFCP事業(商談会シート作成等の研修)を組み込むことについて了解

(上期の取組みについて)

□農水省職員を講師に迎え、商談会シート作成のメリット等を説明(5月23日)

→山梨中央銀行が主催する商談会(7月6日)を活用したFCP普及

□FCPの普及に賛同する企業、行政が参加した活用研究会(6月10日)へ参加

→山梨ランチ事務局職員の資質向上

□県商工会連合会において、職員向けの研修会を活用したFCP普及(6月20日)

→農水省職員を講師に迎え、6次産業化にも役立つFCP取組み事例を説明

□県中小企業団体中央会の会員で、アグリフードEXPOに出展する企業に対してFCP普及

→山梨ランチ事務局職員による、商談会シートの作成方法について説明(6月22日)

展示会・商談会シートの“発表の場”としての商談会の活用 例) 地元地銀での商談会

出展者数約100社の展示・商談会
**やまなし食のマッチングフェア
2011**

日時 2011年7月6日(水) 10:00~17:00

会場 アイメッセ山梨 (山梨県甲府市大津町2192-8)



3・平成23年度下期の取組み

(上期の課題)

- 上期は、各事業体の既存の事業に組み入れたため、単発的な事業説明となった。
- 展示会・商談会シートの活用が中心となり、ベーシック16や共通工場監査項目まで届かなかった。
- 各団体ごとの説明が重複してしまい、複数参加者にとっては物足りないものとなった。



(下期への取組み)

- 上期と重複する内容は避けながら、FCPの事業内容について普及啓発を図る。
- 2月に開催される、スーパーマーケットトレードショーや食の発掘商談会などの大規模商談会へ参加を予定している企業向けに、講座を行う。

(実施内容)

- 県が主体となった講座を開催(4回構成)することで、理解を深める機会を創出。
対象者:これまで商談会へ出展経験がある食品事業者、食品事業者をとりまとめる団体
(県中小企業団体中央会、県商工会連合会等)、商談会主催者(山梨中央銀行)、
関係機関(県産業労働部、農政部)。 ※参加人数各回 14名~24名
- 内 容:①制度説明・商談会シートの説明・自社商品アドバイスタイム 11/24 2.5h
- ②バイヤー目線による商談会シートの作成指南・ミニ商談会 12/5 3h
- ③参加企業による模擬商談会の実施・ミニ商談会 1/23 2.3h
- ④商談会後のアンケート調査 2月中旬に実施 →内容を踏まえて今後活用

4・各回の状況（写真）



第2回講座

京王百貨店の野口マネージャーを講師に招き、バイヤー視点でのシート作成方法を伝授。また、ミニ商談会を開催しました。



第3回講座

農水省の安田様、伊藤様を講師に招き、模擬商談会を行い、改善点を指摘。また、商談会に係る流れを説明。

5・山梨ブランチスケジュール

山梨ブランチ組立表

	平成23年度														
	4月	5月		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月	
県内食品関係事業者向け講演会等の予定	県内食品関係事業者団体と農林水産省との情報交換会	中銀事前説明 5/23	中銀 5/27 食のビジネス情報連絡会	商工会連合会 6/20 6次産業化研修会	中小企業団体中央会 6/22 アグリ出展者説明						県ワイン組合 12/8 県産ワイン商談会	中小企業団体中央会 12月中旬 6次産業		商工会連合会 2月 農商工連携マッチン	
FCP導入事業【山梨ブランチ】		商談会シート説明 農水省職員		FCP概略説明 農水省職	商談会シート説明 県職員		下期組立検討	○下期商談会に向け、体系的なFCP習得講座の開催(和歌山ブランチをベース) ・体系的な内容で、4講座で構成。 ・食品事業者以外の、関係者(団体、銀行、行政)も研修を受け、伝達講習を期待。 ・外部有名講師の招聘による、実務に則った魅力的内容(京王百貨店バイヤー等)。							
各種商談会予定					中銀 7/6 食のマッチングフェア 県出展 77社	アグリエキスポ 8/2・3 県出展 11社	グルメ&ダイニングスタイルショー		地銀セレクション 11/1・2 県出展 5社				トレードショー 2/1・2・3	食の発掘商談会 2/8・9 県出展 11社	FOODEX 3/6~9
国の事業予定		事業説明 5/11					中間報告 9/9	研究会 9/27							成果報告
その他	山梨中央銀行アグリビジネススクール														農と食のコラボレーション講座(農政部)

メモ

メモ